

平成16年度

雲南市及び市関係施設への寄付ありがとうございました



平成16年度中に雲南市及び市関係施設へ、多くの方から寄付をいただきました。紙面をもってお礼に代えさせていただきます。ありがとうございました。
 なお、今回は合併による雲南市誕生から平成17年3月までの期間に、市役所総務部総務課へ報告があったもののうち、5万円相当額以上の寄付があったものを掲載しています。

寄贈先	寄贈者(敬称略)	寄贈年月日	品名など
雲南市	平成17年加茂町四十二厄落し祈念の会 代表 坂本 渉	H17.1.11	図書券(旧加茂町地域指定)
雲南市	(株)山陰合同銀行 取締役頭取 若佐博之	H17.3.25	石油ファンヒーター
雲南市	日本刺繍美術院 木村義弘、木村千鶴、坂本暢子、川島康子、錦織さよ子	H17.3.30	日本刺繍「雲南市市章」
雲南市	(株)ネスター	H16.12.10	寄付金(ビリオネア大学指定)
雲南市	(有)植田建設	H17.2.17	寄付金(青少年健全育成事業として)
大東中学校	大東中学校第37期卒業生	H17.1.19	寄付金
海潮中学校	海潮地区の皆様		寄付金
海潮中学校	高島ハル工		玄関の生花(1年間)
海潮中学校	高島組(有)		非常階段下のコンクリート張
大東小学校	大東小学校祖父母会	H16.11	児童図書
大東小学校	大東小学校PTA	H16.12.21	三角鉄棒
大東小学校	大東小学校PTA	H16.12.21	児童図書
大東小学校	大東教育振興会	H17.1.26	デジタルビデオカメラ
大東小学校	平成16年度卒業生	H17.3.18	移動式案内黒板
海潮小学校	海潮地区の皆様	H16.12	図書充実費
加茂中学校	一八会 代表 藤原克朗	H17.3.11	寄付金

みんながまなびがひろがるしくみづくり

「まちづくり懇談会共催団体の募集について」

市長が市民のみなさんと直接会い、ふるさとの恵みを活かした魅力あるまちづくりについて親しく語り合い、市民の皆様と行政の協働による「新しい日本のふるさとづくり」をめざすため、市長との懇談を希望する団体と共催で「まちづくり懇談会」を開催します。

懇談会の開催要領

- 募集団体
市内に本拠地を置き市内で活動をする団体で、雲南市のまちづくりについて市長に提言し、懇談を希望する団体。
- 懇談会の出席者は、10名以上とし、充分な意見交換ができる範囲内とします。
- 開催日時、場所
平成17年7月～9月(申し込みにより順次開催します)。
会場は原則、共催団体で確保してください。開催時間は2時間以内を目途とします。
- テーマ
特定の専門的・個別的事項に偏ったものや、単に団体のPRとなるもの、陳情・要望のみを目的としたものでなく、幅広く市民の関心呼び、まちづくりに役立つテーマとします。
- お申し込み方法
開催を希望される団体は、事前に政策企画部情報政策課(☎0854-401015) または各総合センター自治振興課までご連絡ください。詳しい開催要領等について説明し、申込書を出していただくこととなります。
- 共催団体の決定等
共催団体の決定は、開催テーマ・受入体制等を勘案して決定します。結果は、後日、電子メールまたは電話・郵送等で通知します。
- その他注意事項
懇談会の司会進行は、共催団体の方で行います。
懇談会の模様は、CATVや報道機関が取材することがあります。
共催団体は、共催にあたって市が必要と認めて行う指示に従っていただきます。
共催団体は、懇談会関連の記録や成果の広報に協力していただきます。
市長等の日程調整には時間を要するため、なるべく早めの応募をお願いします。

市民みなさんの意見交換の場 市政懇談会を開催しています



現在、市内各会場で平成17年度市政懇談会が開催されています。

今年度の市政懇談会は、5月9日の加茂町のもてらからスタートし、6月2日の吉田町のふるさとセンター・掛合総合センターを最後に市内34会場で開かれます。
 今回の懇談会では、平成17年度の主要施策や予算、その運営の方針などについての説明を中心に行いました。それを受け、各会場では質問、意見、要望等も数多く寄せられ、これまでに「雲南市にはたくさん文化遺産がある。これらを活かしたまちづくりの考



えは」「地震等の災害時の対応が不安。現時点の対応はどうなっているか」などの質問がありました。
 市では懇談会でみなさんから寄せられた意見や提言を市報に掲載しますとともに新しいまちづくりに活かしていきます。
 また、どなたでも各会場へ参加することが出来ますので、まだ参加されていない方はぜひお出かけください。

いきいき雲南



子供の学力の低下が心配されています。こうした状況を受けて、文部科学省は、ここ数年の「ゆとり教育」の見直しを唱えています。
 しかしながら学校の指導のもとに勉学に励んできた子どもたちにしてみれば、いきなり「君たちは教育力が低い」と言われても戸惑うしかありません。
 「ゆとり教育」の基本的な考え方は1960年代に米国で生まれ、その後、米国はかつての日本の教育システムを参考に建て直しを図ったと言われています。逆に日本は、「米国のゆとり教育」に学ぶ路線を歩み始めました。そして、今、それが見直されようとしています。
 戦後60年が経過し、この間の教育の在り方が、良きにつけ悪しきにつけ今の日本の根底にあるのは言うまでもありません。
 昔も今もこれからも、知育、徳育、体育は教育の基本でありましょう。戦後の学校教育で、これらのバランスが保たれ、実践されてきたのが改められていく必要があると思えます。
 子供たちが、時代の波に翻弄されてはなりません。
 (雲南市長 速水雄一)